

にいがた 畜産協会たより

公益社団法人
新潟県畜産協会
新潟市西区山田字堤付2310-15
全農にいがた第2ビル内
TEL.025-234-6781~6783

特集 畜産コンサルのすすめ



2016年干支「申」（新潟県護国神社の巨大絵馬）

目次

- | | |
|---|--|
| ◆年頭のご挨拶 会長 今井 長司(2) | ◆声のコーナー(7) |
| ◆11~12月に開催した
セミナー・情報交換会等を紹介します(3) | 「共進会と仲間の大切さ」
酪農経営：十日町市 鈴木 尚貴
「畜産後継者として」
肉用牛経営：長岡市 樋山 智行 |
| ◆特集「畜産コンサルのすすめ」(4)
畜産個別支援指導を受診してみませんか？ | ◆畜産安心ブランド生産農場だより(8)
上越市：農事組合法人 下澤養鶏柿崎農場 |
| ◆口蹄疫の防疫対策を再確認！(6) | ◆畜産共進会等への褒賞授与(8) |
| ◆安心農場を14農場新規認定、県内過半数に！(6) | ◆編集後記(8) |

年頭のご挨拶



公益社団法人新潟県畜産協会
会長 今井 長 司

明けましておめでとうございます。

旧年中は、皆様方から当協会の業務推進について格別のご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて 昨年を振り返りますと、10月初めに環太平洋パートナーシップ協定（TPP）の大筋合意がなされ、日本は、牛肉・豚肉や米など重要5品目の大幅な関税削減や新たな輸入枠を受け入れました。参加12か国の批准はこれからではありますが、国内農業の将来に大きな不安を与えているところであります。

国においては、関税削減で影響が懸念される肉用牛経営、養豚経営への対策として「肉用牛肥育経営安定特別対策」及び「養豚経営安定対策」事業による補填率を引き上げるとともに、両事業の法制化を盛り込んだTPP関連政策大綱を明らかにしました。

大綱の具体策が決定されるのは今年秋とされておりますが、畜産物の価格安定対策等に係わる事業は当協会の主要な業務であることから、引き続き行政・関係団体等と連携しながら、肉用牛経営をはじめとする本県畜産の生産基盤の強化に取り組んでまいります。

畜産情勢が不透明の中、畜産経営における6次産業化への取り組みで、力を発揮し、輝いている女性が確実に増えてきております。

当協会においては、活躍する畜産女性を「協会たより」で紹介し、情報発信するとともに、畜産に携わる女性に呼びかけて、加工販売などの起業に取り組む女性を囲み、勉強会等を開始したところであります。

子育て中などで、まだまだ参加人数が少ない集まりではありますが、一堂に会する機会に乏しい女性達がお互いの状況を知り、様々な情報を交換し、知識を得ながら自らの経営に向き合うことは、女性の一層の活躍を引き出し、新たな経営展開の一助になるものと期待しております。

少子高齢化やTPP等国内外の状況により畜産物の需給は予断を禁じませんが、本県畜産の振興を図りながら、消費者の皆様へ安全・安心な県産畜産物の提供を担う当協会の役割を引き続き果たしてまいりたいと考えております。

本年が皆様にとって希望に満ちた明るい年となりますことをご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

11～12月に開催したセミナー・情報交換会等を紹介します

優秀畜産表彰&畜産経営セミナー

優秀畜産表彰式では、黒毛和種肥育経営の渡辺洋一氏（上越市名立区）が優秀賞に選ばれ、畜産協会長賞、県知事賞、全農県本部長賞が授与されました。渡辺氏は、肥育素牛の価格が高騰している状況にあっても、計画的な素牛導入により大幅な規模拡大を達成している点や、徹底した飼養管理による死廃事故の防止、自家産牛肉の販売、畜種を越えた地域の畜産仲間との活動といった積極的な取り組みが評価されました。

渡辺氏の経営概況等を当協会のホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。



畜産経営セミナーでは、公益社団法人中央畜産会経営支援部次長の三上隆弘氏から、「儲かっている経営は、ここが違う！ ～経営収支と現場（飼養環境・技術等）をリンクする力～」と題し、自身が行ってきた畜産コンサルのデータや写真等を用いて、「畜産経営におけるデータ管理の重要性と経営展開」「多角的な視点で見抜く飼養技術と経営収支の関連性」「青色申告決算書で見る畜産経営の収益性と安全性」「三大費用」から見た「経営改善」のチェックポイント」の4つの点から、畜産経営の儲かるポイントについて講演をしていただきました。

また、「優良事例から学ぶ経営管理技術」では、平成25年度全国優良畜産経営管理技術発表会で農林水産省生産局長賞を受賞した肉用牛繁殖経営者の佐藤弘氏（秋田県雄勝郡羽後町）から、「耕畜連携による粗飼料生産が経営改善の糸口になる。」と題し、自身の経営や取り組みについて紹介していただきました。

今回のセミナーは経営者や農業大学の学生など100人を超える参加があり、時間不足との声が聞かれるほど盛況でした。

畜産に携わる女子会

畜産業に携わる若い世代の女性同士の交流を通し、女性の視点に立った事業展開等を学ぶことを目的として、新潟県畜産振興協議会との共催により「畜産に携わる女子会」を2回開催しました。

1回目は、6次産業化の取り組みや、畜産以外にも女性目線で気になる話題なども含めて、和気あいあいと意見交換を行いました。2回目は、（有）フルーヴ代表取締役の手塚貴子氏（情報誌編集長）を講師に、消費者目線で見える農畜産業やその生産物について講演をしていただき、情報発信について意見交換を行いました。

参加者からは継続開催の要望が多数出るほど好評な女子会でした。



肉用牛後継者の情報交換会

肉用牛経営の後継者が、自己の経営改善や今後の経営発展の参考にすることを目的として、情報交換会を開催しました。

畜産経営セミナーの講師でもある三上隆弘氏と佐藤弘氏が助言者として、「飼養管理とコスト」「労働力の確保」「経営の継承」など直面する課題について意見交換が行われました。

参加者からは、「有意義な集まりだった」「もっと話してたいくらい充実した時間だった」との感想が聞かれるほど活発な会となりました。



畜産コンサルのすすめ ～畜産個別

当協会では新潟県から委託を受け、畜産経営体の生産技術の高度化と所得の向上を目的として、「畜産経営改善指導事業」を実施しており、個別支援指導（通称：畜産コンサル）に取り組んでいます。

具体的にどのような支援指導を実施しているのか、ご存じのない畜産農家さん向けに「畜産コンサルのすすめ」として特集を組みましたのでご紹介します。

Q. 畜産コンサルってどんなことをするの？

畜産農家さんからの要請内容や経営実態に応じて専門担当者（畜産コンサルタント）から成る指導班を編成し、経営改善、経営安定化を図るための支援指導を実施します。

更に、県地域機関（振興局、家畜保健衛生所）職員も指導班に参画しています。

Q. 畜産コンサルタントってどんな人？

畜産協会、大学、県畜産研究センター、金融機関等の専門知識を持った職員で指導班を編成しています。

Q. 指導の流れはどうなっているの？

- ① 現状把握のための調査、データ取りまとめを3日間で行います。
- ② 経営の問題等を分析し、約2週間後に検討会を開催して課題に対する改善対策を提案します。

Q. 受診料っていくらかかるの？

一切かかりませんので、お気軽にお申し込みください。



データ取りまとめ作業

◎ 受診農家さんの声

村上市 養豚経営 高橋 豊さん

私は平成25年に右も左もわからないまま養豚業に就いたわけですが、当時は他農場との違いを知る手立てとして、近隣の農場の方々とのお話または会議等で耳にしたことが情報収集の手段でした。当時はそれが当たり前とっていましたが、普及センターや過去に指導を受けた同業者の方々から畜産協会の畜産コンサルを薦められて受けてみようかと考えました。

しかし、自農場の経営状態はかなり悪い状態にあり、指摘される所だらけで意見を聞いたところで改善のしようがないのではないかと少々不安がありました。とはいえ健全な経営を目指す上で畜産経営の専門家の指導を受けるのはこの上ない機会と思い受診を希望しました。

平成26年の12月初め、3日間の経営状況の調査が始まり農場成績、財務の状態など詳細な部分まで調べていただきましたが、その当時としては相当厳しい評価が下されるのではないかと恐る恐る見守っていたのを思い出します。今思い返せば3日間の調査、分析中の会議室での会話も貴重な情報源になり大変勉強になりました。やはり数々の農場を見てきたからこそ言えるアドバイスには感心したものでした。

その後、およそ2週間後の検討会、各種項目に対して適切な分析と対策を助言していただき、飼養管理の重要性を改めて実感しました。その結果、農場成績は他農場と全てにおいて比べることすらできなかったものが、部分的ではありますが比較出来るレベルにまで達してきましたので、一層の成績向上を目指して、来年度も受診を希望したいと考えております。

◎ 地域指導機関担当者の声

新潟農業普及指導センター 渡部 映子さん

県内で、「畜産コンサルを受けたことがある方」は何%位いらっしゃるのでしょうか？「経営内容は、青色申告しているから分かっている。」という方も中にはおられます。しかし、経理士は決算書を見て、経営上のアドバイスはできますが、その1番の元となる「畜産技術」についてアドバイスすることは難しいと思います。

「技術」と「経営」は両輪の輪です。片方だけでは思うような経営改善効果を得ることはできません。両方を同時に併せ考えながら検討できるのは「畜産コンサル」だけだと思います。

支援指導を受診してみませんか？～

特に就農後、間もない後継者の方にはオススメです。それまではただ黙々と日々の作業に取り組んでいたことが「技術的に問題がないのか」、問題があれば「どの位経営的にマイナスになっているのか」、「問題を解決する手法」、「解決した場合、どの位経営的にプラスになるのか」など、具体的な数字によって理解することができるので、「経営全体の理解」や「やる気」につながっていくと思います。

初めは戸惑い、厳しいアドバイスに落ち込む場合もあるでしょう。しかし、何年か続けているうちに、「毎年畜産コンサルを受けて自分の経営を改めて把握しないと不安になる。」と私に話してくれた経営者の方もおられたほど、畜産コンサルは畜産経営にとって素晴らしい取り組みだと思います。

「毎日忙しいのに畜産コンサルなんて面倒だ。」と言う前に一步踏み出してみてください。明日からのあなたの経営が変わるきっかけになるかもしれません。

◎ 農業協同組合担当者の声

北越後農業協同組合 中野 裕さん

私が畜産担当になって9年が経ち、この間、管内に14戸あった養豚経営は現在7戸と半分になりました。後継者がおらず高齢化により廃業した方や、平成21年の低豚価、飼料高騰に伴う経営難など自らの経営努力ではどうしようもない時期に廃業した方もいました。中には、畜産コンサルでアドバイスを受けながら、自己努力でどうにか低豚価を乗り切った方もいましたが、資金不足で畜舎の修繕が間に合わず、豚舎の老朽化により続けられなかった方もいました。

現在の管内の養豚経営は、飼料用米やエコフィードを使用し、また生産成績の向上により生き残った生産者ばかりです。その中には畜産コンサルを受け、具体的な経営数値を確認して翌年の意欲につなげている生産者がおります。繁殖成績が落ちた場合は、種付け時期や再発の見逃し、哺乳豚の管理など多方面にわたって関係機関と相談しながら改善することができますし、また事故率が高ければ、ワクチンプログラムや食肉衛生検査成績などを活用して家畜保健衛生所と一緒に考えることができます。飼料要求率、農場要求率が低ければ、飼料会社に相談し、解決できるのではと思います。

畜産コンサルは関係機関との意見交換の場にもな

り、色々な情報も得ることができます。また、私自身が畜産コンサルで得た情報について、畜産コンサルを受けていない生産者に情報を提供できるので管内全体のレベルアップにつながっていると考えております。

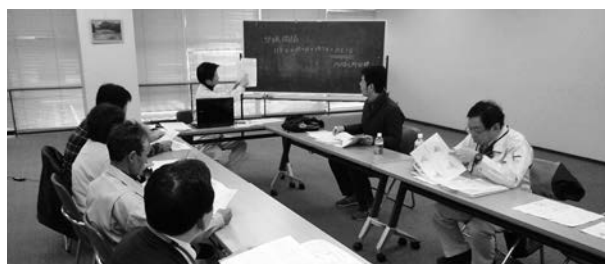
◎ 畜産コンサルタンの声

(株)日本政策金融公庫新潟支店 中村 朋広さん

私は、平成24年度から畜産協会の畜産コンサルタント（会計・経理担当）の委嘱を受け、これまでに養豚、酪農の畜産コンサルメンバーとして畜産コンサルに携わっております。

畜産コンサルの主たる目的は、生産面、財務面の分析から、自身の経営上の課題を認識し、畜産コンサルタントからの指導・助言を受け経営の改善につなげていくことにありますが、私は、畜産コンサルを受けるメリットは、診断結果だけでなく、畜産コンサルの実施過程にもあると考えます。通常、畜産コンサルでは分析を行うため現地で3日程度の調査を行い、調査期間は経営者と畜産コンサルメンバーが長い時間を一緒に過ごすため、畜産経営に関する様々なことについてざっくばらんに語り合うことができます。畜産コンサルメンバーは各々が所属する組織で県内各地の様々な畜産経営を見ているため、経営者にとっては、新たな情報を得たり、自身と異なる地域や生産者グループの経営動向などを知る良い機会となります。また、畜産コンサルメンバーには私のような融資機関の職員も含まれるため、日頃は融資取引等で必要な時しか接触しない融資機関の担当に、資金の活用方法や融資機関が経営を見る着眼点などを聞くこともできます。

皆さんも、このようにメリットの多い畜産コンサルを受診し、経営改善に役立ててみてはいかがでしょうか。



検討会の様子

農家さんや畜産コンサルに携わる皆さんの声聞いて興味をもたれた方、畜産コンサルを受診してみませんか？

口蹄疫の防疫対策を再確認！ ～ 生産者段階の防疫演習を県内3か所で実施 ～

口蹄疫等の悪性家畜伝染病に対しては、国家防疫の観点から家畜保健衛生所等を中心とした防疫措置の強化が図られてきていますが、この国家防疫と整合性のある強化が不可欠な自衛防疫については、生産者自らによる地域ぐるみでの初動防疫活動を関係者と共通認識の下で取り組むことが重要となります。

当協会では、昨年、県内3か所で実施し、好評でしたので、本年度も3か所で実施しました。

内容は、地域の生産者を対象とし、各地域家畜保健衛生所職員に講師をお願いして、「もし地域で口蹄疫が発生したら」をテーマに机上演習で防疫作業を確認するとともに、実際の資材を用いて踏み込み消毒槽の設置や車両消毒と消毒液作成等の実地演習を行いました。

第1回目は、11月11日、柏崎農業協同組合旧北条支店において、柏崎地域農業振興協議会生産振興部会と共催し、参加者は生産者等40名でした。

第2回目は、11月16日、えちご上越農業協同組合園芸畜産課会議室で、「畜産担い手グループ」の研修会と共催し、参加者は同会員等23名でした。

第3回目は、11月19日、新潟地域振興局巻庁舎で、新潟西部地域農業振興協議会の「地域ぐるみの防疫対策推進研修会」と共催し、参加者は生産者等23名でした。

出席した生産者は、平成22年に宮崎県で発生した口蹄疫の伝播の速さに改めて脅威を感じ、発生農場では72時間以内に防疫措置を完了させる迅速な初動防疫の重要性と防疫演習参加の重要性を再認識しました。また、病原体の侵入防止には飼養衛生管理基準に基づく基本的な対策の励行が肝心と、帰宅後は早速、配付した演習資材を利用して踏み込み消毒槽を設置するとのことでした。



えちご上越農業協同組合における防疫演習 (H27.11.16)

安心農場を14農場新規認定、県内過半数に！ ～ 畜産安心ブランド認定委員会を開催 ～

当協会は、県畜産課の事業と連携し、安全・安心な畜産物の提供対策としてHACCPの考え方に基づく衛生管理手法を導入した農場を、毎年「畜産安心ブランド生産農場」として認定してきました。

平成15年度のクリーンポーク（豚）認定からスタートし、牛、鶏も加えて本年度で13年目です。

本年度は、管理獣医師及び家畜保健衛生所等の指導により飼養衛生管理プログラムや各種記録簿を整備した乳用牛9農場、肉用牛2農場、豚2農場、肉用鶏1農場、計14農場から申請がありました。

認定申請を家畜保健衛生所経由で11月13日までに受理した後、現地調査を実施しました。今年は、5日間にわたり、認定委員会の楠原征治委員長から各農場の飼養衛生管理状況を実際にチェックしていただきました。厳しい畜産情勢が続いていますが、各農場は生産性向上と生産物の品質向上に努力されており、また、何よりも、後継者が意欲的に取り組んでいる農場が多く、今後の発展が期待されます。

12月17日、新潟県自治会館において、学識経験者、消費者代表、流通関係者、生産者団体及び県機関で構成されている畜産安心ブランド認定委員会を開催して、申請農場の飼養衛生管理実施状況等について審査をいただいた結果、全ての農場が認定基準に適合していると判断されました。協会長は、直ちに14農場の認定を決定し、この結果、下表のとおり、認定農場数は255戸となり、県内畜産農家の50%と、過半数が安心農場になりました。関係者の皆様には、認定農場の信頼確保のため、今後ともご指導をよろしく申し上げます。

認定農場数と認定率（平成27年12月17日現在）

畜種	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏	合計
農場数	84	75	55	21	20	255
(%)	(38)	(65)	(50)	(51)	(87)	(50)



楠原審査委員長による現地調査 (H27.12.1)



酪農経営
十日町市原町
鈴木 尚貴



肉用牛経営
長岡市中之島中条
樋山 智行

『共進会と仲間の大切さ』

私は、酪農家の三代目として生まれ、いつしか家を継ぐ事を考えるようになりました。それまでは、少し手伝う程度にしか牛に興味がなく、何も考えずにいましたが、それが今では、親の影響もあり牛が大好きになりました。

昔から開催されている共進会にも、ほぼ欠かさず出品していて、昨年は全日本ホルスタイン共進会が開催された年でした。

10年ぶりに北海道で開催された全日本ホルスタイン共進会は、私にとって、とても貴重な体験となりました。10年前と言えば私は19歳で北海道農業専門学校1年生でした。それから、10年の月日を経て自分の牛が新潟県予選を通過した時には、嬉しくて嬉しくてたまりませんでした。毎年共進会には、欠かさず出品していましたが、結果は下位の方ばかりでした。いつかは行ってみたいという夢舞台上、まさか自分の牛が行けるなんて思ってもいませんでした。

全日本ホルスタイン共進会が終わって痛感した事は、全国のレベルの高さ・仲間のありがたさです。まず全国の乳牛レベルは非常に高く、私の牛は足下にも及ばなかったこと、悔しいけれど現実でした。まだまだ先は長いですが、自分を奮い立たせる良い機会になりました。また、会場では初めての事もあり何もわからず、同じ新潟県の方々には、本当にお世話になりました。

そして、自分と共に寮生活を送った全国で酪農をする仲間達にも久々に再会でき、飼料をもらったり、いろいろ手伝ってもらったりと何かと助けられました。また、家を空けた一週間、快く行かせてくれた家族が居たからこそ、あの場所に立てた事にもとても感謝しています。自分と関わる様々な人達に助けられ、勉強してこられたと実感しています。

また5年後も全日本ホルスタイン共進会に出品できる様に日々の飼養管理を頑張りたいと思います。

『畜産後継者として』

稲作と和牛肥育の複合経営を営む我が家では、数年前から肥育牛の管理全般を私が受け持つようになってから、稲作を父、牛は私が主体となり互いに協力しながら日々の作業に従事しています。

肥育管理は、父の厚意に甘えて好き勝手させて貰っていますが、まだまだ自分自身が納得できるレベルには程遠い現状です。それでも牛たちが過ごしやすい環境づくりを第一に、肥育成績の更なる向上を目指して試行錯誤を繰り返しています。

今年63歳になる父は、以前にも増して経営移譲の話題に触れるようになりました。話の中心は専ら税制上の問題についてですが、肥育成績の向上にばかり目がいき、農業経営自体にはあまり関心を示さなかった私も、少しずつですが後継者として今後の経営について意識するようになりました。

そんな折、本誌の発行元でもある新潟県畜産協会のお声かけで、県内の肉用和牛農家の後継者による情報交換会が開催されました。私自身も近年の素牛の高騰から一部一貫経営も視野に入れねばという思いもあり、全くと言っていいほど知識が無かった和牛繁殖について繁殖農家さん自身から直に学べる良い機会だと考え参加させていただきました。初めての開催ということもあり和牛繁殖、粗飼料の品質管理、経営継承と話題も様々で、また時間にも制約がある中、瞬く間に閉会の時刻となってしまいましたが、私自身は同世代の方々の畜産経営者として将来を見据えるその意識の高さにただただ脱帽するばかりでした。それと同時に、農業経営に対しても積極的にチャレンジしてみようという意欲も生まれました。

次回の開催時も是非とも参加させていただき、自分からも情報や意見を発信して同世代の仲間へ貢献し、ともに新潟県の畜産を盛り上げていきたいと思っています。

今後は父が築いてくれた経営基盤を最大限に活かして、将来の更なる規模拡大と経営の安定化を目指すべく、着実に準備を進めていく所存です。

畜産安心ブランド生産農場だより

上越市：農事組合法人 下澤養鶏柿崎農場

今回、家畜保健衛生所職員の視点から管内安心ブランド生産農場であるクリーンエッグ生産農場の農事組合法人下澤養鶏柿崎農場についてご紹介します。

柿崎農場は上越地域の日本海が眺望できる海岸近くに立地し、湯本農場長をはじめ地元採用の従業員の皆さんが12万羽の鶏を飼育されています。消費者に安全安心な卵を提供するため日頃の管理に最大限の注意と努力を払われており、平成26年度にクリーンエッグ生産農場に認定されました。

鶏舎内は器具機材が整然と整理され、梁や筋交いなど環境中の埃が少なく、鶏舎内の見通しの良いことにまず感心します。アウト後、毎回、鶏舎内全体を水洗いし、埃や汚れを洗い流しているとのことでした。また、日本海から直接吹き付ける風のため、防鳥網やカーテンなど鶏舎内外の日々の点検と破損があった場合の速やかな修繕、鶏の適切な管理に努められています。

高病原性鳥インフルエンザの発生が世界中に拡大し、配合飼料価格が高止まりしているうえ円安の影響もあって、今年は卵の値段が例年に比べ高く推移しています。一方、冬期間における高病原性鳥インフルエンザ対策は手が抜けません。毎日毎日、目に見えないウイルスに備えることの心労はいかばかりかと推察されますが、農場のみなさんはそのような中でも一生懸命、衛生管理に取り組まれています。

(上越家畜保健衛生所 牧井賢充)



従業員の皆さん

畜産共進会等への褒賞授与

当協会では、本県の畜産振興に寄与するため、主に県下一円又は市町村の範囲以上を参加地域とする畜産共進会等において、優れた成績を収めた方に対し、賞状及び副賞を交付しております。

平成27年6月から11月までに9ヶ所の共進会等で交付いたしました。結果は下記のとおりです。

賞状及び副賞を交付した共進会等

(開催日順、敬称略)

行事名	主催者	賞名	受賞者名	住所
第41回 全佐渡ブラック アンド ホワイトショウ	佐渡 ホルスタイン改良 青年同志会	最高位賞 (経産牛)	本間靖芳	佐渡市
JA北越後/ JA豊栄合同 肉牛枝肉勉強会	北越後農協 繁殖肉牛専門 部会	ベスト枝肉賞 (黒毛和種の部)	猪股一直	新発田市
くびき肉牛枝肉 研究会	えちご上越 協同組合 肉用牛部会	最優秀賞	高橋勝美	十日町市
第22回 JA佐渡 和牛共進会	佐渡農業 協同組合	優等賞 (未經産牛)	小崎邦宏	佐渡市
		優等賞 (経産牛)	梶井正弘	佐渡市
平成27年度 新潟県子牛 共進会	全国 農業協同組合 連合会 新潟県本部	最優秀賞 (雌の部)	渡辺俊行	東蒲原郡 阿賀町
第15回 十日町農業協同 組合養豚枝肉 共進会	十日町 農業協同組合 養豚部会	最優秀賞	生越利男	十日町市
		優秀賞	(有) 姿農場	十日町市
第60回 新潟県肥育牛 求評共励会	全国 農業協同組合 連合会 新潟県本部	最優秀賞	漆間 平	村上市
		優秀賞(1席)	坂上清一	胎内市
		優秀賞(2席)	小野耕司	胎内市
第25回 肉用牛共進会	新潟県 家畜商協同 組合	優秀賞 (和牛の部) 1席	荻谷耕治	上越市
		優秀賞 (和牛の部) 2席	(株)三国	長岡市
第44回 中之島地域 畜産共進会	中之島 地域畜産振興 協議会	最優秀賞 (肉用牛)	田口正一	長岡市

編集後記



新年あけましておめでとうございます。さて、昨年末からの暖冬少雪のまま、新年も比較的穏やかな天候での幕開けとなりました。しかし、畜産を取り巻く情勢は、TPPの大筋合意など不安要素があり、なかなか穏やかになる気配は感じられません。

今回の特集は「畜産コンサルのすすめ」として、農家さんや関係者の声を掲載しました。申年の今年、困難が去る年になるよう畜産コンサルを受診して経営改善に取り組んでみてはいかがでしょうか？少しでも畜産農家の皆さんのお役に立てるよう精一杯がんばりますので、本年もどうぞよろしく願いいたします。

(谷川 記)